

コースコード：RH-AD183

税込価格：233,200円 (税抜価格：212,000円)

日数：4日間

ここに注目!!

受講対象者

このトレーニングはこのような方におすすめです。

このコースは、Java Enterprise Edition (Java EE) の世界を構成する仕様の詳細を学びたい Java 開発者を対象としています。

前提条件/前提知識

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

- ・ Java SE アプリケーション開発に関する技能と 2年以上の経験が必要
- ・ Red Hat Developer Studio や Eclipse などの IDE の使用経験
- ・ Maven の使用経験は推奨されていますが、必須ではありません

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

このコースは、Java SE プログラミングから Java EE プログラミングへの移行に必要なスキルを強化することを目的としています。

このコースに参加すれば、Java EE 7 のほとんどの仕様を説明でき、各仕様のコンポーネントを作成できるはずです。Java SE プログラムを多層 Java EE アプリケーションに変換することができます。以下のスキルを習得できます。

- ・ 多層 Java EE アプリケーションのアーキテクチャについて説明する
- ・ Java EE アプリケーションをパッケージ化し、さまざまなツールを使用して Red Hat JBoss Enterprise Application Platform にデプロイする
- ・ Enterprise Java Beans インスタンスを作成する
- ・ Java Persistence API を使用してデータの永続性を管理する
- ・ JAX-RS を使用して Web サービスを作成する
- ・ Bean にコンテキストスコープを適切に適用し、Java Bean にリソースをインジェクトする
- ・ Java Messaging Service を使用してメッセージを保存および取得する
- ・ Java EE アプリケーションをセキュリティ保護する

アウトライン

多層アプリケーションへの移行
Java EE の機能を説明し、Java EE アプリケーションと Java SE アプリケーションを区別する

アプリケーションのパッケージ化およびアプリケーション・サーバーへのデプロイ
Java EE アプリケーション・サーバーのアーキテクチャを説明し、アプリケーションをパッケージ化し、アプリケーションを EAP サーバーにデプロイする

Enterprise Java Beans の作成
メッセージ駆動型 Bean を含むエンタープライズ Java Bean を開発する

永続性の管理
検証付きの永続エンティティを作成する

エンティティリレーションシップの管理
JPA エンティティの関係を定義および管理する

REST サービスの作成
JAX-RS 仕様を使用した REST API を作成する

Contexts and Dependency Injection (CDI) の実装
CDI を使用してアプリケーションに正常に実装するユースケースを説明する

JMS を使用したメッセージング・アプリケーションの作成
JMS API を使用してメッセージを送受信するメッセージング・クライアントを作成する

Java EE アプリケーションのセキュリティ保護
JAAS を使用して Java EE アプリケーションを保護する

Red Hat JBoss Development I: Java EE の理解度の確認
コース中に得られた知識やスキルの習熟度を示す